

キャベツ生産の減農薬化に向けた光防除技術の可能性

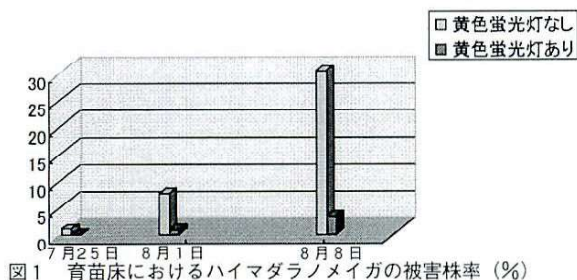
1 はじめに

管内では明石市・稲美町で黄色蛍光灯によるキャベツ育苗床での耕種的防除法を普及させた。さらに、本田での防除にも役立てようと稲美町において、農林水産技術総合センターと共同で行った実証ほをキャベツ害虫による被害が多い11月穫りの作型で設置したので、その結果について紹介する。

2 実証ほの概要と結果

品種：YR泰山、は種日：7月10日、育苗方式：イセキナウエル144穴、定植日：8月2日、収穫日：実証ほ場（24a）10月14日から、対照ほ場（16a）10月28日から。

育苗床では黄色蛍光灯の点灯により苗に当たる照度約1～2Lux以上確保した。その結果、苗の芯を食害するハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイムシ）による被害が軽減された（図1）。



本田での設置状況

本田では24aのほ場に6本の黄色蛍光灯を設置し、キャベツにあたる光をほぼ1～2Lux以上確保した。その結果、ハイマダラノメイガ、ハスモンヨトウの害虫については高い防除効果が得られた。

また、本田における、ハイマダラノメイガの被害率は黄色蛍光灯無点灯で3.88%、黄色蛍光灯点灯で0.96%となった（図2）。

本田の薬剤防除は、害虫発生状況を調査し防除を行った結果、黄色蛍光灯無点灯で8回、黄色蛍光灯点灯で6回と本田での防除回数を減らすことができた。

出荷実績は黄色蛍光灯無点灯で4,605株/10a、黄色蛍光灯点灯で4,744株/10aであり、分球率が直接出荷に影響を与えた。

3 キャベツ畑の中で感じたこと

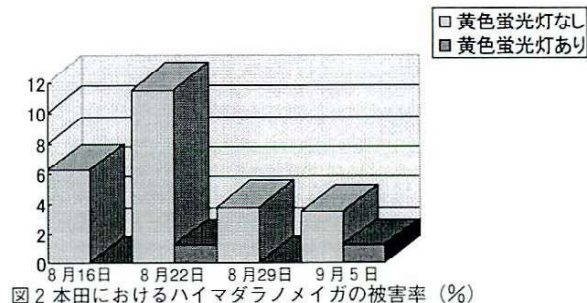
過去何年か減農薬化の取り組みをした中で、（やはり基本的なことだが、）生産者自ら、害虫の発生をよく見極め、適期に防除することがより効果的であることがあらためて認識させられた。

4 今後の展開方向

電源確保できる育苗床での設置については、普及の目途がたち、農家の関心も高いが、電源の少ない本田での設置が課題となっている。

今後、環境にやさしい、ソーラパネルの利用、近未来の燃料電池の開発により、中山間地域への導入も可能である。また、トマト、なす、軟弱野菜等への利用も可能と考えられる。

泉田 孝志（明石普及センター）



ひょうごの農林水産技術 No.127

平成15年5月1日（隔月刊）

兵庫県立農林水産技術総合センター（0790）47-2400

1部250円（申込先・県立農林水産技術総合センター）